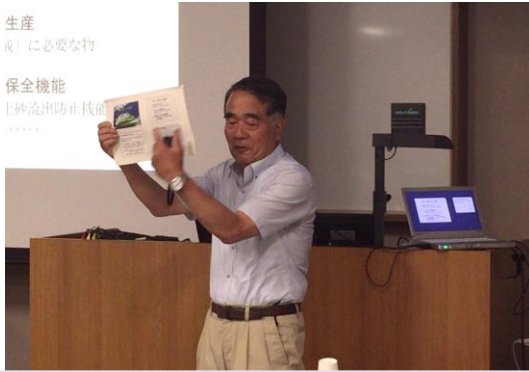


里海学びの講座①

開催しました！

生産
良しに必要な物
保全機能
土砂流出防止機能



- 日時 令和元年5月24日（金）18：30～20：30
- 会場 香川大学研究交流棟6F 第一講義室
- 講師 増田 拓朗 氏（香川大学名誉教授）

5月24日（金）に、香川大学で、里海学びの講座①を開催しました。
はじめに、香川県環境管理課職員から「里海づくり概論」と題し、「里海とは何か」や「香川の海が抱える問題」などについて解説がありました。

続いて、香川大学名誉教授である増田拓朗氏より「森と海のつながり」と題し、「森と海のつながり」のわかる事例や「海における物質生産」、「森林の持つ水土保持機能」について講義いただきました。

まず、森と海のつながりのわかる事例として、魚類を集めその繁殖・保護を図る目的で設けられた海岸林である「魚つき保安林」の説明がありました。さらに、海岸林伐採により魚が寄り付かなくなった事例として、北海道えりも岬を具体的な事例に挙げ、失われた海岸林を復活させるのにどれほどの苦労があったかを伝える映像を受講者は真剣に見入っていました。

続いて、「海における物質生産」の説明では、植物プランクトンや海藻・海草といった、海の物質生産起点となる生物に必須とされる窒素やリンなどの栄養塩は、陸からの流入に大きく依存し、流入元である森が間伐されていない状態だと、十分な供給ができないというお話がありました。さらに、近年、窒素やリンなどの栄養塩の不足が養殖ノリの色落ちにも影響していると解説がありました。

「森林の持つ水土保持機能」の説明では、洪水や土砂流出などを抑える森林の水土保持機能についてのお話や、優良な森林土壌とそうでない森林土壌への水の浸透速度を経時変化で示したデータや国内国外の河川流域を例にした森林のダム機能について解説がありました。

最後に、「どの森が良くてどの森が悪いということではなく、それぞれの森に応じた森づくりが必要。豊かな森が豊かな海をつくる。」とのお話がありました。受講者からは「海的环境だけでなく、森林の状態がよくないと漁業などにも影響が出るのがわかって良かった」、「森と海の関わりについて深く知ることができた」等の声が上がりました。

里海学びの講座② 開催しました！



- 日時 令和元年6月7日（金）18：30～20：30
- 会場 香川大学研究交流棟6F 第一講義室
- 講師 石塚 正秀 氏（香川大学創造工学部教授）

6月7日（金）に、香川大学で、里海学びの講座②を開催しました。

香川大学創造工学部教授である石塚正秀氏より「川と海のつながり」というテーマで講義いただきました。最初に、講師から受講者に、「川は汚れている？それともきれい？」と質問がありました。続いて、「川はあなたにとってどんな存在ですか？川での思い出は何ですか？」の質問があり、受講者同士で意見を交わしました。

続いて講師から、「川の役割」として、世界の河川と日本の河川の比較や、川が運ぶ物質、法律に基づく河川管理、河川の役割や特徴について説明を受けました。

次に、「水環境に関わる水質指標」として、「植物の光合成や食物連鎖、有機物の分解」についてのお話、栄養塩（窒素・リンなど）といった水環境に基づいた水質指標の説明や、水質の経年変化について具体的な統計データを交えて解説がありました。

最後に「瀬戸内海における水質変化」として、瀬戸内海の水質変化の原因と現状についてのお話や、これまでの法規制の歴史をたどりながら今まで取り組んできたことや今後の課題について解説がありました。

受講者からの質問では、「経年変化のデータでBOD（生物化学的酸素要求量）の数値の変動が昔は大きかったのはなぜ？」など専門的な質問も出て、受講者の関心の高さがうかがえる講座となりました。

里海学びの講座③

開催しました！



- 日時 令和元年6月14日（金）18：30～20：30
- 会場 香川大学研究交流棟6F 第一講義室
- 講師 末永 慶寛 氏（香川大学創造工学部教授）

6月14日（金）に、香川大学で、里海学びの講座③を開催しました。

香川大学創造工学部教授である末永慶寛氏より「藻場造成と里海づくり」というテーマで講義いただきました。

まず、講師の研究されている「瀬戸内海沿岸における藻場造成」についての説明がありました。これは、人工漁礁の構造物を実海域に沈設し、磯根資源（＝磯に根付いて生活する海産動植物のこと。）生産力の回復・向上を目指すもので、構造物にガラモなどの海藻を付着させます。実際に海藻の生育が確認されただけでなく、春には、魚のエサとなるヨコエビ類などの生き物も多く確認でき、海藻が育つだけでなく魚にエサも供給できることが実証されたそうです。

次に、「東北沿岸域でのウニと藻場の共生実現へ向けて」の説明がありました。これは、瀬戸内海とは環境が異なる海域である東北地方沿岸域で、ウニと昆布の共生を目指すものです。昆布を食い尽くしてしまうほどの食圧をもつ「ウニ」に対するベストな昆布の再生方法にたどり着くまで、諦めることなく何度もチャレンジし、ついに成功したお話をいただきました。

最後に、「高潮に関する防災対策」について説明がありました。過去に、香川県に想定以上の高潮被害をもたらした台風16号及び23号の高潮の状況を分析して、再現データを得ることができたそうです。「再現できたことに満足するのではなく、このデータをいかに今後の高潮に関する防災に生かしていくかが重要だ。」とお話をいただきました。

受講者からの質問では、「海底の掘削は今でも行われているのか」、「稚魚の放流は、生態系に影響を与えないのか」等の質問が上がりました。